創立　1964年 6月16日
認証　1964年10月19日
第2510地区　第11グループ
創立40周年
2003~2004
The Weekly Report of Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

2003-04 Rotary International Theme
Lend a Hand

2003～2004年度
R.I会長
ジョナサンB.マジィアベ
国際ロータリーのテーマ
『手を貸そう』

四つのテスト

……言行はこれに照らしてから……

1. 真実か　どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか　どうか

ロータリーとは

- ロータリーは、事業および専門職務に携わる人々の世界的奉仕団体です。ロータリーは、人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることを奨励し、世界理解と平和を目指して尽力しています。
- ロータリーは、世界で最初の奉仕クラブです。最初のロータリー・クラブは、1905年2月23日に、米国イリノイ州シカゴで創立されました。
- ロータリアンは、毎週、例会を開いて、親睦を深め、地域社会や国際社会にとって重要な問題について興味深く有益なプログラムを楽しんでいます。
会員は、推薦制度によって入会し、その会員組織は地域社会の横断面となっています。

北村　祐治 会長 テーマ『YES, I DO!』さあ、行動しよう！

4月28日卓話　北川　能典 氏

《第1965回例会》　第 41 号　5月12日(水)

本日のプログラム

「インドネシアの報告」

北村　祐治 会長

★会長　北村祐治(千尋)　★幹事　柴崎　晃

例会場：函館国際ホテル　〒040-0064 函館市大手町5－10　TEL23-5151
例会日：毎週水曜日　12:30～13:30　事務局：函館市大手町5-10 ニチロビル4F　TEL23-3870

株式会社　国際サービス
（建物清掃管理業）
代表取締役　阿　部　誠　太
〒040-0064　函館市大手町5－10　ニチロビル
TEL(0138) 23－1408
（広告掲載：阿部　誠太 会員）

函館北ロータリークラブはweb(ホームページ)を公開しております。

http://www.hakodate-north.org/
e-mail アドレス rotary@hakodate-north.org

2003－04年度　函館北ロータリークラブの事業目標

1. 一般会計の健全化――― 創立50周年に向けて
2. 親睦「この方と出会ってよかった！」――２００３年９月２１日創立記念式典・懇親会が最大の「親睦の日」
3. 奉仕――― ＊地域社会：市へ交通安全車(1500cc)の寄贈(記念事業)
ロータリーによる新世代への教育開発・意欲開発を目指す。
――― 子供・家庭・職業奉仕委員会を通じて地域社会に貢献する―――
＊国際奉仕：国際奉仕活動の“芽”を育てる
今、他国では、一万円の奉仕の価値が十倍・二十倍にたかめられます。
「R.I.３４００地区インドネシア・ジョグジャカルタ・タマンサリR.C.を通じて、小学校の図書館支援のため、本箱・机・本１５００冊などの物品を寄贈する。」
4. インターネット・コミュニケーション委員会を設置し、当クラブと外のクラブとの情報を円滑にし、合わせて会員企業の情報交換に貢献する。
5. 友人の言動に好意を示し、友人の成長を願って、“手”を貸しましょう。―――
――Lend a Hand and Take Action with our heartfelt care
――for Rotary's international vision!

◎4月14日出席報告

会　員	３９名	出席率対象会員	３８名
		出席規定免除会員	１名
		出席率規定免除会員	１名
当日出席	２４名	当日欠席	１４名
他クラブ出席	７名	出席合計	３１名
出席率		８１.５８％	

・テレフォンサービス(例会移動案内)電話 26－3170番

次回・5月19日 プログラム	卓話「函館ラグビー界の状況」 函館市ラグビーフットボール協会 会長　薮越　敏廣 氏

R.I.３４００地区　インドネシア・ジョグジャカルタ・タマンサリR.C.への

公式訪問　報告書

期　間：２００４年４月１５日～１８日
訪問先：インドネシア・ジョグジャカルタ特別州
　　タマンサリ・ロータリークラブ
視察者：函館北ロータリークラブ　　会 長　北村　祐治
　　同クラブ　　理 事　石橋　輝夫
　　現地通訳　　北村　恵子

◆訪問目的

２００３年９月２１日函館北ロータリークラブ創立４０周年記念事業
国際社会奉仕ＷＣＳ　……識字・教育推進事業(事業費総額５０万円)……として
R.I.3400地区　インドネシア・ジョグジャカルタ・タマンサリR.C.を通じて行った
下記の事業完了・遂行の確認と現状視察および、②の贈呈式と調印セレモニー出席。

①インドネシア・ジョグジャカルタ市公立テガル・レジョ第三小学校図書館整備事業
（３０万円）
……→　２００３年９月２０日に開館式終了済み

②R.I.２５１０地区　ＷＣＳ委員会補助金事業(２０万円)

・上記の小学校に日本の図書・ビデオ(映画・新幹線・京都などについて)、
および使用済み教科書(小学校低学年用)などを寄付する。
……→　日本で購買。運送費含め１０万円超相当。

・地域の読書習慣の向上を目的に、Taman Bacaan(青少年のための地域図書館 Muda Mudi Rw10)への図書および図書館設備の支援。
……→　１０万円を資金援助。

◆行動表

期　間：２００４年４月１５日～１８日(旅行期間は４月１３日～２０日)
目的地：ジョグジャカルタ特別州ジョグジャカルタ市
滞在先：メリア・プロサニ(Melia Purosani)３泊

4月15日(木)　13:10	バリよりジョグジャカルタの空港に到着。 (バリとの時差１時間) 会長・幹事他会員の出迎えを受ける。

私は、先月４月１３日から２０日まで、石橋輝夫氏とともに、インドネシアのバリ島、ジョグジャカルタ、およびジャカルタに６泊８日の日程で視察旅行に行って参りました。今回の視察旅行は、２００３年９月２１日函館北ロータリークラブ創立４０周年記念事業として、事業総額５０万円をかけて行った国際社会奉仕事業、つまりジョグジャカルタ・タマンサリ・ロータリークラブとの協力による図書館整備事業の完了・遂行の確認と現状視察、および青少年のための地域図書館に対する援助資金の贈呈式と調印セレモニーに出席することが第一の目的でした。また私にとっては、同時に、インドネシアの異なる３つの地域を視察することによって、インドネシアに対する理解を深めるということも、もう一つの大きな目的でした。一方で、函館観光のＰＲも含め、ビデオテープや観光パンフレットおよび夜景の時計付壁掛けなどを持参し、またインドネシア・日本の二国旗の“ロータリー交流バッジ”や“国際会議大阪大会”の腕時計や羽子板バッジなどをお土産として持参し、友情・感謝・親善・日本への理解の向上に努めて参りました。

１５日にジョグジャカルタのアディスチプト空港に到着してから、１８日に同空港をバリに向けて出発するその時まで、エディ・ジュリアント会長をはじめ多くの会員が同行し、会員方々多忙な中、手あつい接待をうけました。しかし、宗教上の理由か、習慣の違いでしょうか、アルコール類が１滴もでなかったことに驚きました。

ジョグジャカルタは、市の人口が４５万人くらい、州の人口が４００万人くらいでスルタン(王様)が州知事をしています。市内には高級ホテルや中規模ショッピングセンターなどが点在します。日本で言うと、京都・金沢・会津などを想像してみたらよいと思います。町のメインストリートには、商店の前の道路にびっちりと屋台出店が張りついており、また道路にはバイクが非常に多かったです。これらは他の東南アジア諸国と同様であると感じました。

さて、現地ロータリーアンは、キリスト教徒や中国系が多く、服装については我々とさほどかわりがありませんでした。車も皆、１・２台所有していて、ベンツやＢＭＷなどに乗っている会員もいました。特に小型ランドクルーザー型の車は、どの会員も必ず所有しているようでした。車の約９０％は日本製だそうです。携帯電話は必需品のようで、会報には携帯の番号が記載されています。インドネシア人の平均月給が日本円で１万円程度というのに比べ、ロータリアンは７～１０万円くらい。現地ロータリアンの生活レベルは、我々より高く豊であるように感じました。

会員のお嬢さんたちは、キリスト教系の学校に通学し、髪を長くしていて、日本や香港のお嬢さんとほとんど変わりないという印象をうけました。交換留学生の行き来が盛んで、タマンサリ・ロータリークラブからは、年に１名、ロータリーの交換留学生として海外に渡航しているようです。留学受け入れ先は主にオランダ・ブラジル・アメリカなどのようでした。日本への留学を希望する学生は多いのですが、日本の受け入れ状況が良くなく、インドネシア３４００地区全体で１名しか枠がないそうです。インドネシア人の人柄はとても良いので、出来る事ならば、短期の留学でも、日本への受け入れを推進できればと思いました。

	14:00	昼食。鳥のから揚げ有名店へ。
	15:30	Rtn. トリスノ、Rtn. インダ夫妻の自宅へ招待される。歓談。 自宅にプールやビリアード台などがある。高級住宅街。
	16:30	夫妻の経営するオートバイ店(KAWASAKI代理店)視察。 その後、Rtn. トリスノ氏の兄(実家)が経営するオートバイ店を訪問。趣味で所有する年代物のクラシックカーを多数拝見する。
	17:30	ホテルにチェックイン。
	19:00	チャリティー・コンサート　“ARISTA2004”に出席。 300人以上の出席あり。 10万円および図書などの贈呈セレモニーと今回の事業内容紹介がスクリーン上でなされた。 「上をむいて歩こう」やジャズの演奏、くじ引きなど。
	21:30	終了
4月16日(金)	8:00	テガル・レジョの小学校を訪問。 先生や子供達の出迎えを受ける。 図書館で読書中の子供達と一緒に写真を撮る。
	10:00	水の王宮とクラトン(Kraton 王宮)を視察。 王宮風の昼食をいただく。
	14:00	ホテルにもどり休憩。
	16:00	青年のための地域図書館(Muda Mudi RW10)のオープニング・セレモニー出席。日本語でスピーチ。 100-150世帯の区の図書館で、大変感謝された。 18日の地方紙(プルナス紙)に記事として掲載 (→記事の内容は添付資料を参照)。 終了後、例会時刻まで Rtn. インダ夫人らとともに、GalleriaS.C.でお茶をする。
	19:30	定例金曜例会。ホテル・サフィール。 例会前に皆でホテル内レストランで食事をとる。
	20:00	30分ほど遅れて例会開始。 20名中16名出席。ブラジルからの交換留学生も出席。 Rtn.Dicky の妻 Tia 夫人が新たにロータリーに入会。 お祈りにはじまって、例会が始まる。会員全員の写真が画面に打ち出され、紹介される。コンピューターを用いた近代的な例会。野田先生翻訳の英語でスピーチする。 その後、北ロータリークラブよりのお土産を手渡す。 Sunshine BOX(ニコニコ)に、2,000円を2人で寄付。

METRO YOGYA

Halaman 1

Perpustakaan Jetis Terima Sumbangan Buku dari Rotary

Pariwisata Bantul Targetkan Rp 2,5 Miliar

Kawanan Perampok

地域図書館(TAMAN BACAAN)のオープニング・セレモニー

◎卓話　「数 の 小 話」　　函館大谷高等学校 校長　北川　能典 氏

大谷高校の北川です。日ごろ北ロータリークラブの皆様には本校のローターアクトクラブへの御協力など、大変お世話になっております。

本校の学校訓は「人間大好き」ですが、インターアクトの活動もそこににつながっているものと思います。

さて、今日は数に関係した教育の話を少しさせていただきます。

世界に目を向けてみますと、イラク情勢は混迷を深めています。それに対し、日本は経済情勢の不安などはありますが、落ち着きをみせていると思います。この差は、日本が法治国家であることが挙げられるでしょう。イラクは現在、法律もめちゃくちゃな状況です。法律、つまり日本国憲法の第１条についてふれてみます。学校の教員にも「困ったら原点に帰れ」と常々話していますので、原点に帰って憲法の理念を考えて見ます。第１条には２つのことが書かれています。一つは国民主権、もう一つは天皇の地位、これは象徴としてです。教育の世界にも憲法なるものがあります。教育基本法です。こちらの第１条にも２つのことが書かれています。一つは人格の完成を目指して仕事をする、２つ目は日本国民として心身ともに健康に育んでいきたい、ということです。学校教育法の第１条に学校の種類について名記されています。学校とは幼稚園、小、中、高校、大学、専門学校、聾・盲学校などで、これらを１条校とよびます。社団法人の学校や理美容学校などは学校と認められてないわけです。

この１条校の小学校の入学条件に「満６歳に達した日の翌日以降における最初の学年の新学期（４月１日）をもって小学校入学とする」と学校教育基本法で定められております。では４月１日生まれの子どもはいつ満６歳を迎えるのでしょうか。こちらは年齢に関する法律によって「起算日に応当する前日をもって満了する」とあり、４月１日生まれは前日の３月３１日に満６歳となり、４月１日の時点では満６歳であるので先ほどの学校教育基本法により３月３１日生まれと同学年になります。また、４月２日生まれは４月１日に満６歳となるので、４月１日生まれより１年遅れての入学となります。

さらに別な数の話です。「人一倍がんばる」とよく言います。人の２倍、３倍頑張る、ととらえるのが普通です。しかし、考えてみると人一倍…、一倍はかける１で同数ではないですか。これは人並みに頑張るということかと。人一倍という表現を最初に用いたのは３５０年前、江戸前期の浮世草子・伊原西鶴だと言われます。親父の命を担保に借金をした息子の話にでてくるそうです。その後明治８年に言葉としては人一倍という表現は残るが、一倍の意味はなさないということになったようです。

大谷学園の経営方針に「オンリーワン」を掲げています。北ロータリークラブの皆様は企業でのトップの方々だと伺っております。ナンバーワンである程にオンリーワンを大事にしていただきたいと思っています。「人間大好き」を生徒に体験してもらいたいと常日頃心がけております。今後とも大谷高校および大谷高校インターアクトクラブへのご理解・ご協力の程宜しくお願いします。

今回は、日本でも人気の観光地バリ、そして古都ジョグジャカルタの他に、インドネシアの首都であるジャカルタの中心部と旧バタビア地域も視察しました。ジャカルタは、アジアの他の地域で言えば、香港・上海のような印象をうけました。そごうデパートや有名欧米ブランドが揃うショッピングセンターがあります。高級ショッピングセンターには、日本でいえば「百貨店そごう」の価格ラインの商品がならぶ高級専門店や、さらに世界有名ブランドが入っています。宝石店を覗いたところ、我々でも買えないくらいの高価な宝石品がならなでいて、インドネシアの下層階級と上層階級の貧富の差を感じました。

今回の視察全体を通じて、非常に印象に残ったのは、インドネシアの若者が非常に活気に満ちているということです。日本の昭和３０年頃から４５年頃を思い出させるような生活向上意欲、勉学意欲が感じられます。また、若者の日本に対する憧れが非常に高いことを知りました。日本はアジアの国であり、その経済成長と技術成長はアジアの中の先進国として、尊敬の眼差しで見つめられているのかもしれない。このような日本への羨望に対して、私達は上手に手を差し伸べ、特に教育を通じた所得レベルの向上の手助けを出来れば良いと思います。

私はこれまでもロータリークラブを始め色々な奉仕活動に関わってきました。今回のインドネシア支援は、ぜひ国際奉仕活動に関わってみたいという気持ちから始まったわけですが、そもそも奉仕とは、“奉仕して求めず”であり、何かをしてあげたりという気持ちが行動に現れる事であります。やってあげた、ではないのが国際奉仕だと思います。それでもこうした国際奉仕が、もしかしたら将来的に日本へ還元されるときがくるかもしれません。例えば、私達の援助により所得レベルが向上した彼らが今度は観光客として来日するということがあるでしょう。

最後に一言。タマンサリ・ロータリークラブの初代会長である Rtn.リンガ氏に突然電話したところから始まった今回の図書館支援ですが、我がロータリークラブの国際奉仕委員会を始め、会員一同、さらにはインドネシア・タマンサリ・ロータリークラブ会員の協力がなくては、これほどのことは実現できませんでした。また野田義成会員には、タマンサリ・ロータリークラブとの通信において、お忙しい中、たびたび翻訳をしていただきました。この場をかりて、厚くお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

（会報担当者：渡部　二康 委員）